慶應義塾大学学術情報リポジトリ

Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古版経済書解題 一千七百〇七年版「貿易の繁昌を祈る者」著 貨幣及び為替概論
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1941
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.35, No.6 (1941. 6) ,p.778(80)- 786(88)
JaLC DOI	10.14991/001.19410601-0080
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19410601-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって 保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古版經濟書解題

一千七百〇七年版「貿易の繁昌を禱る者」著『貨幣及び爲替概論』

高橋誠一郎

題するものである。本書の著者は「貿易の繁昌を薦る者」(a Well-wisher to Trade)と云ふ匿名を用ひてゐるが、一 Monies and Exchanges; In which those of all Trading Nations are particularly Describ'd and Consider'd.) に宛てた本書献本の辭にはエー・ジェーと署せられてゐる。 般にアレグザンダー・ジャスチス(Alexander Justice)と看做されてゐる。ニコラス・タワートン (Nicholas Tourton) 一千七百〇七年に倫敦で出版せられた『貨幣及び爲替概論』(A General

了解するは稀れであり、完全に之れに通達する者に至つては洵に寥々たるの有様である。是に於いて乎、著者は、之 れに闘する若干の外國の著作に英國の服裝を綴はしめて江湖に示さんことを期したのである。然しながら、彼れが是 爲替は固より貿易の最も複雑錯綜せる部分であつて、之れに關する知識は一商人の嗜みとして決して蔑視す可き 而も、猶ほ、此の貿易國家、英國に於いては、如何なる者も其の普通の手續以上のものを

いて上梓せるものである。(Preface.)。 が海外より將來せるものであつて、當時和蘭に居住しつゝある佛蘭西の亡命者が佛蘭西語を以つて草し、 るを以つて便宜と考へたのである。(Dedication.)。本書の原本は、倫敦の商人ニコラス・リンカン(Nicholas Lincoln) と呼ぶ所のものく原理原則の何等整然たる體系をも提唱するの域に到達することなきを認めて、彼れが自ら業務遂 數年の經驗中に在つて、這般の問題に關して其の念頭に浮んだ思想を本論の前置として附加す 來た如何なる外國の著者と雖も、此の世界が「爲替の神秘」(The Mystery of Exchanges) 和蘭に於

Discourse of Monies and Exchanges.) と題せられ、九十五頁より成るものである。 Science of Exchange)と呼ばる」を得可きものであつて、「貨幣及び爲替の絡言的概論」(An Introductory General 全然ジャスチス自身の著と稱せられてゐる本著の緒言的概論は正さに「爲替學要義」 (The Elements

ーシリング、一ファーザング等の如き、國家の權威によつて鑄造せられ而して上記の權威と其れ自體の內在的價值 國若しくはあらゆる他の國に於いて流通するあらゆる眞實の正貨、即ち貨幣の片を意味する。斯くて、あらゆる國 べての稱呼と解釋する。斯くて又、英國に於いては、正確に一封度の價値に通用する如何なる正貨も存せざるが故 貨幣」によつて、何等眞實なる正貨の正しき價値に非ざる貨幣の或る一定の高を表明するが爲めに使用せらるる總 に依つて或る一定の價格に於いて通用する金屬の或る一定量と做す這般の定義に該當するを得可きである。(pp. 1-に於ける正貨、及び其の種類相異なるに拘らず、 著者に從へば、一般に貨幣は「想像的」(Imaginary)及び「真實的」(Real)の二種に分割せられる。彼れは「想像的 一磅は此の王國に於いては想像的の高である。彼れは「眞實的貨幣」によつて、或る一定の價格に於いて、此 荷も眞實の流通貨幣のあらゆる片は、這箇、一ギニィ、一クラウン、

古版經濟書解的

八十 (七七九)

るく正確なる平價の存することを説く。 に至つた爲替は、 ジャスチスは、 或る國の正貨の內在的價值と他國の其れとの均等を意味し、 是れ等の地 其の讀者に向つて、 方から他の伊 ても亦甚しく相互に相違するが故に、 ル(Dagobert)の治世に於いて、 一都市若しくは國家の貨幣の交換若しくは交易であるとする。 各正貨の真實且つ有效なる價値に從つて、 太利亞の亡命者によつてアムステルダムに傳達せられた。(p. 2·)。 心べての國 彼れは爲替の騰落を以つて、 是れ等の兩者は結局同一 ベネチア及びデェノアに於いて盛んに行はる人 又其の後、諸他の君主によつて佛蘭西から追放 是れ等のものが其の鑄造せらるい國々に於い 爲替の平價を以つて、 是れ等の つて、或る國の想像的貨。彼れは眞實的貨幣の平 た財産を回收するが爲 ものと間 價格に於いての に確立せら 、は想像的

國に於いて存する需要である。 (p. 4.)。而して、這般の貨幣交換は常に爲替手形によは或る國の鑄貨の通用價格の變化であり、第二は偶々 次ぎの如き二事態の 割引及び諸

(七八、こ

八 \equiv

古版經濟書例題

外國に於ける銀行貨幣と通貨との間の相違に就いて述べる。(pp. 7-34.)。

Mappe of Commerceの著者ルイス・Pバートを指す)の説くが如く、亞弗利加及び印度に於いては、貝殼、鐵、南 錫其の他の如き卑金屬の或る者より成る鑄貨によつて有效に供給せられ得るものと想像する人々は甚しく誤れるも 作られた價値である。 を指すことが明かであらう。昭和十五年版拙著『重商主義經濟學說研究』三六五頁以下参照)が「貨幣は法律によつて のなりと做し、而して、一千六百九十年に、A Discourse of Trade. を公にせる匿名の某著者(ニコラス・バーボン 京玉・鹽及び紙・銅及び鉛、 の商業が許容せられない遠い印度の或る王國に於いては頗る魅力に富むものであらうと。洵に、斯くの如き王國に 界の總べての他のものに知られて居らず、又、世界の他のものは之れを知らざるが、若しくは、 の頃の內在的價値に從つて評價するに過ぎざるが故に、如何なる歐洲國家に於いても、貨幣の不足が、銅、眞鍮、 總べての必要品を彼れ等に得せしめることが出來,而して外國の便宜品及び貨物が永遠に彼れ等に知られないとし たならば、毫も問題ではないのである。然しながら、歐羅巴に於いて、 と、石であると、貝であると、又は他の如何なる這箇瑣末なる物質であつても、そが彼れ等自身の國土の産出する るを以つて無關心事と夢想するは、 著者は貨幣に就いて概説し、 いては、彼れ等の貨幣若しくは貨幣として彼れ等の間に流通するものが、眞鍮であると、木であると、革である 彼れは貨幣に對して最も拙劣なる定義を與へたものであると做した。ジャステスは言ふ、 而して、 果實等が貨幣の代りに通用することあるも、而も、外國人は如何なる國の貨幣をも其 其の價値の差は該片の刻印及び大きさによつて知られる」云々と説ける章句を擧示 The Map of Commerce の著者(一千六百三十八年に初版を出した Merchant's 其れ自體に於いて極めて狂妄なる空想である。(pp. 34-38.)。 銀及び金の代りに銅若しくは真鍮を使用 少くとも外國民と 彼れの所論は、世

る為替手形支拂期日の猶豫日敷を掲げる。(pp. 64-68.)。 著者(Henry des Acuiliers)に據る貨幣及び爲替の平價に關する他の記述を擧げる。(pp. 47-64.)。著者は又、バル 而して、 關する書中に擧示せらる」所に從つて、和蘭のリックスドラーと比較せられた諸種の貨幣の平價、並びに、別箇の セロナより安得府に對するものを初めとして、兩地間に於ける爲替手形の流通期間として習慣上認められた期限、 びにマリオス(Marius)、スカーレット(Scarlet)及び其の他の著者より抜萃せられた各地に於いて普通に認めらる 次いで、 著者は、大多敷の場所に於ける貨幣の稱呼及び計算の仕方をアルファベット順に記述し、(pp. 48-55.)、 カルド(Ricard)によつて、 佛蘭西語を以つて記され、アムステルダムに於いて出版せら れた其の爲替に

|| 替を攻撃し、又、單に之れを理解するの力を缺くが故にのみ其の效用を拒否するものと做してゐる。(pp. 68-69.)。 為替は自國の貿易の拘衡を生ぜしむる安易なる手段方法を供給するものである。(p. 71.->。 兩國間の貿易の差額が 平等であるならば、疑ひもなく、爲替は平價に於いて存するか、若しくは極めて之れに近かる可きである。然しな 是れを以つて貿易上頗る有用なるものと觀、或る者は彼れ等が其の何たるかを知ることなきが故に聲を大にして爲 がら、貿易の差額が不平等であり、 的及び政治的方面の考察に移り、而して、そが那邊まであらゆる國民に取つて有用且つ有利なるかを檢討せんとす る。而して、玆にも亦、著者は、必然、貨幣及び鑄貨に言及するとと、爲るのである。彼れは、貨幣の送付は正價 に於けるよりも、 「爲替及び貨幣の實際的方面を略述し、兩者の本質及び效用を充分に說明せりと信じた著者は、效に、爲替の理論 も著しく大であるならば、 爲替手形に於いて、 疑ひもなく、 而して、一國民が他國民の所有物を購入すること他國民が彼れ等の其れを購入 一層敏速に、一層便利に、一層安全に、又、一層手早やに行はるいが故に、 他國民に債務を負べる國民の貨幣は、 其の國民の債務に比例して

古版經濟書解題

くは減少するものであることが明かである。(p. 74.)。 安く評價せらる可きである。是れに由つて、爲替は自國貨幣の輸出を奨勵するどころか、事實、之れを防止し若し

彼れは最後に、英蘭銀行並びに一般及び特殊の爲替規定に言及して其の緒言的概論を終る。(pp. 92-94.)。 ける兩替人等が自己の私的利益の爲めに依賴することの出來る如何なる方法でもないことを主張する。(P. 76.)。 價値に於ける何等かの變更でもなく 著者は、あらゆる國民の鑄貨の狀態に影響し若しくは影響することの出來るのは、正價の內在價值若しくは通用 外國鑄貨の流通禁止でもなく、其の獎勵でもなく、又、彼れ等自身の間に於

第一項に於いて、 びに全佛蘭西、第三、西班牙並びに葡萄牙、第四、 リオス、マン(Munn)及び其の他の諸湝者に於ける爲替に關する理論的部分の最も重要且つ適切なるものより成る。 フランクフルト、ライプチッヒ及びナウムブルグ其の他の定期市に闘する略論を添へる。第八項はスカーレット、マ せらるゝととのない西班牙及び伊太利亞に於ける數都市の貨幣及び爲替に關する略述より成る。尚ほ之れは、里昂、 大多數の著者は、外國の其れから始めるのであるが、彼れは他の方法に據るを適當と思惟したのである。彼れは又、 尙ほ最後には、爲替に關する重要なる諸點に關する一二の質疑應答が添へられてゐる。全篇四百二十四頁。 「全通商國民の貨幣及び為替概論」に入つて、著者は先づ倫敦及び女王の全領土より始めて、第二、巴里、里昂並 唱する。第七項は、前掲 The Merchant's Map of Commerce. と題する書中に擧示せられて、而も、前論中に注意 丁抹、露西亞、瑞西、サヴオイ其の他、第六、低陸諸邦の順序を以つて之れを叙する。爲替に就いて論ずる 苟も顯著なる貿易の存する大多數の諸外國に在つて既に其の設置を見て居る商事裁判所設立案を 伊太利亞の全重要都市並びに全地中海沿岸都市、第五、獨逸、

with France, reform'd: viz London, Antwerp, Hamburgh, Amsterdam, Venice, and Frankfort, with France. 冷暖 者」と記されてゐる。 in Europe, in Two Exact Tables. 蘭書の英謡である。原著者はジョ 本書には又、A General Treatise of the Reduction of the Exchanges, Moneys and Real Species of most Places 頁附はないが、通計百〇一頁のものである。 更らに之れには附錄として、同じくヘンリーッシィの The Tables relating to the Exchanges ン・ヘンリーッシィ(John Henricy)であって、譯者名は同じく「貿易の繁昌を薦る と題するものが合卷せられてゐる。近くアムステルダムに於いて出版せられた

る。之れに二十八頁に及ぶ索引を加ふる時は、全卷實に九百頁に達するものと爲る。 成る General Discourse of the Weights and Measures usual in all Considerable Towns of Trade. Encouragement of Trade in England, the Privileges of Foreigners in Commerce, and a brief Account of the and the Custom and Practice of Merchants in those Affairs. As also, Product of the Places or the Manufacture Being a View of the Commodities and Merchandizes, produc'd in all Countries of Trade; Whether the 此の書は更らに又、英國其の他の國の著者から拔萃せられた百十九頁より成る A General Discourse of Commerce: An Additional Collection of Instruments and Forms of Writings relating to Commerce. companies of Merchant Adventurers, of the Inhabitants. &c. 七十二頁より成る『爲替論』の著者リカルドよりの英譯 A Together with the Seasons of buying and selling, Several Acts of Parliament for the が合卷せられてゐ 及び四十九頁より

=

英國歷史學派の經濟學者、 牛津大學教授ソー 1 ルド・ロデャース (James E. Thorold Rogers) は、其の一千八

古版經濟書解的

八七(七八五)

rare and valuable work. とか excessively rare, but it is in Bodley. とか記しつくある珍籍が、久しい以前から に於いて参讀することを得たる旨を述べ、同圖書館所藏本は大英博物館には其の一本も存せざる旨を記す由を附記 Laws of the Sea, ancient and modern (especially French and English), together with a proposal to abolish 私の貧しき書架の一隅に所藏せられ居るでとを奇とし、本書が果してロデャースの言ふが如く、稀世の珍書なりや否 「極めて稀覯にして且つ貴重なる著作」となし、彼れは之れを牛津大學のボー of bank stock from August 17, 1694 to September 17, 1703. に於いて、一再ならず本書を引用し、是れを以つて、 Pressing for the Navy. を公にしてゐると云ふことである。 やを訝るものである。ジャステスは、本書の外、一千七百〇五年に A General Treatise of してゐる。(pp. 30, 37.)。私は偶々此の有名なる牛津經濟學者の書を讀んで、彼れが特に再度まで an exceedingly 百八十七年の著 The First Nine Years of the Bank of England. An enquiry into a ドレー圖書館(the) weekly record of the price the Dominion and Bodleian Library)

殉逸ハンザに闘する近著三種

高村黎平

eorg Fink, Die Hanse. (Leipzig. 1939.)

Fritz Rörig, Vom Werden und Wesen der Hanse. (Leipzig. 1940.)

Claus Nordmann, Oberdeutschland und die deutsche Hanse. (Weimar. 1939.)

てしかも要を盡してゐる點において特色がある。

八九(七八七)

schichtsvereinsの第十一冊として公刊されたものであつた。兩者共に開註を缺くが、シェエファ教授の著書は、挿入

された多くの岡版によって讀者の理解を助けるところ多く、フォオゲル教授のそれはその表題の示す如く、簡潔にし

Kurze Geschichte der Deutschen Hanse (München u. Leipzig. 1915.)との二つを數へ得るのみである。前者は八

頼して参照し得るものとしては、Dietrich Schäfer, Die Hanse (Bielefeld u. Leipzig: 1903.)と、Walther Vogel,

獨逸ハンザについての概説書は、このところ暫らく刊行されなかつた。今世紀になつてから出版され、そして信

イク氏編纂の Monographien zur Weltgeschichte. の第十九冊として、後者は Pfingstblätter des Hansischen Ge-